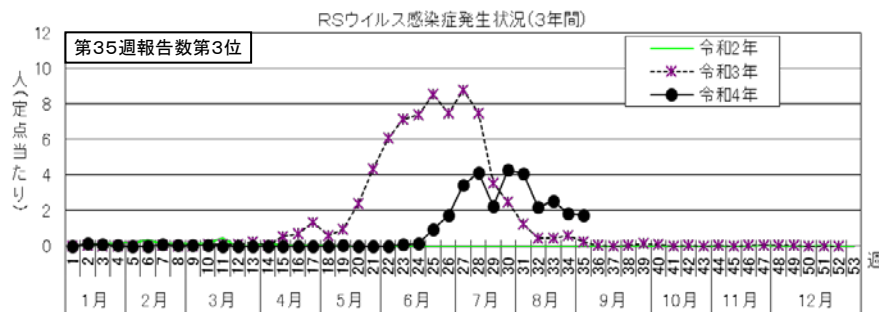
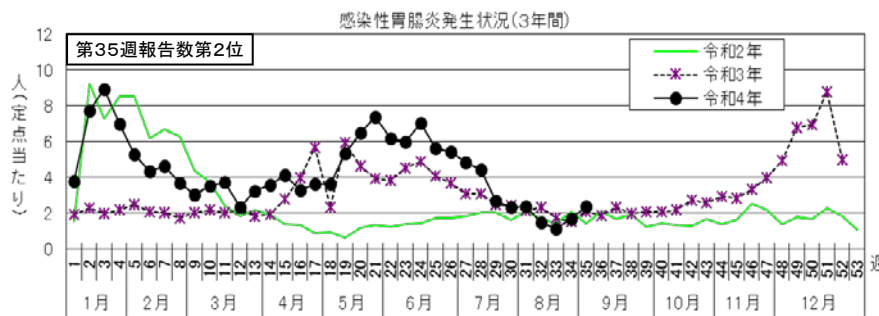
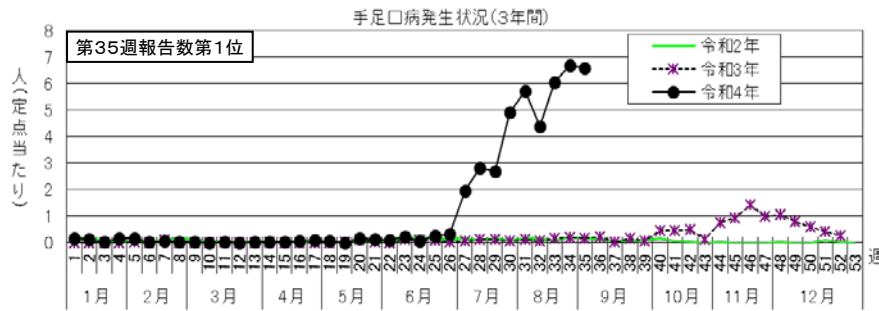


# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年8月29日（月）～令和4年9月4日（日）〔令和4年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 感染性胃腸炎 3) RSウイルス感染症でした。  
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.58人と前週(6.69人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.36人と前週(1.64人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.72人と前週(1.81人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



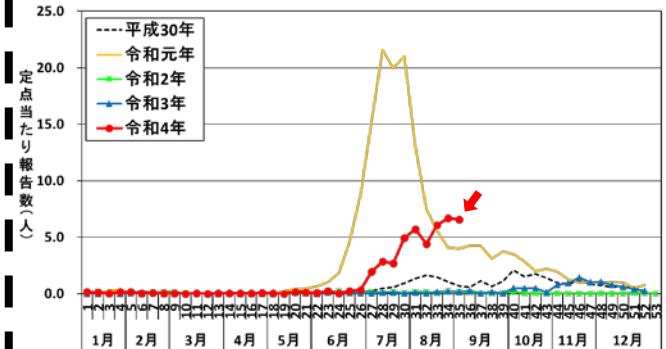
## 手足口病が流行中～大人も要注意！～

川崎市における令和4年第35週(8月29日～9月4日)の手足口病の患者報告数は定点当たり6.58人と、8月上旬から流行が続いており、5歳以下の乳幼児が全体の97.9%を占めています。

手足口病は手のひらや足の裏、口腔内などに水疱性の発しんが現れる疾患で、基本的には予後は良好です。まれに症状の改善後に手足の爪が剥がれ落ちることもあります。新しい爪が生えれば元に戻るとされています。

大きな流行があると成人がかかる場合もあり、その際は症状が重くなることもあります。原因となるウイルスは、症状改善後も1か月程度は便から排泄されるといわれています。お子さんがかかった場合は、御家族の方も手指衛生などの予防対策を徹底するようにしましょう。

川崎市における手足口病発生状況(5年間)



### 手足口病とは？



**病原体：**コクサッキーウイルス、エコーウイルス、エンテロウイルスなど

**感染経路：**飛沫感染、接触感染、糞口感染

**潜伏期間：**3～5日

**典型的な症状：**軽度の発熱、手掌、足底・足背及び口腔内の粘膜などに水疱性の発しん

**予防対策：**手指衛生、排泄物等の適切な処理、タオルなどの共有は避ける。